

札幌市立高校7校の生徒が参加し、 「看護職・リハビリ職体験学習」を実施

本学では、社会貢献の一環として、模擬(出張)講義や体験授業、インターンシップといった高大連携事業を実施しています。1月8日、本年最初の体験授業となる「看護職・リハビリ職体験学習」を行い、旭丘、開成中等、清田、啓北商業、新川、平岸、藻岩の札幌市立高校7校から計56名が参加。看護学科、理学療法学科、作業療法学科の授業を実際に体験しました。

看護学科

自分の体で診る、触れる、聴く、測る。 看護師によるフィジカルアセスメントって？

看護学科は男子2名を含む計36名が参加して、本学科2年次の授業で取り入れられる「看護師によるフィジカルアセスメント」の体験授業を行いました。説明の後はさっそくグループに分かれ、4つのブースで実習をスタート。フィジカル人形を使つての聴診や問診、脈拍測定などに実習室は大盛り上がり!「あれ??脈どこ?」「わお!足が反応した!」と初めての体験や意外な体の動きに驚きの声もいっぱい!「実際の仕事に対するイメージがわいて面白かった」「早くこの授業を受けてみたい!」、看護職に興味津々な声がたくさんあがりました。



呼吸音や心音を聞いた後は、その音を感じたとおりに表現!



血管音の始めと終わりを逃さずチェックしよう!



関節の動きを測定。そこから生活にどう影響するかを考えます。



瞳孔の観察は、脳や神経の障害がないかを確認する大切なチェック。

理学療法学科

生活に身近なストレッチからスタート! 運動療法と物理療法で体にアプローチ。

理学療法学科は男子4名、女子3名の計7名が参加し、まずは運動療法の体験授業から。先生からストレッチ方法の説明があった後、2~3人1組に分かれ体の柔らかさを測定し、施術をスタート。「痛い!」「すっごく柔らかい!」と、辛そうな生徒もいれば、余裕たっぷりな生徒とさまざま。施術後の体の柔らかさアップに驚きの声も!体を動かした後は、超音波治療機器と電気刺激装置を使い物理療法の体験へ。「これ、どう?」と、ちょっとドキドキしながら機器を当てて筋肉の反応をチェック。今回は普段の暮らしにも使えるストレッチから授業に入ったので、理学療法をより身近に、楽しみながら体験できました。



筋肉のメカニズムを考えて、ゆっくり無理なく体を伸ばそう。



先生が筋肉を伸ばすコツを伝授!なかなか上手に施術できました。



まずは超音波治療機器の説明から。初めての経験に緊張。



音を使って痛みを和らげる。振動はうまく伝わってる?

作業療法学科

色とりどりの糸を編むミサガ作りで 手先を動かす楽しさを体験。

作業療法学科は女子13名が参加。患者さんが動きと手順を覚えることで、精神的に楽しむとはどういうことかを、ミサガ作りを通して体験してもらいました。3~4人ずつテーブルに分かれ、各自好きな色の糸を選んでもらい、いざチャレンジ!すいすい器用に編む生徒もいれば、友だちと相談し合っ編むグループなど、みんな一生懸命!その後は「楽しさの評価」についての講義へ。①過去・現在・未来に思いが広がる楽しさ②人と関わる楽しさ③達成感による楽しさ④考える楽しさ⑤心や体が肯定的に変化する楽しさといった5つの要素を軸に、これらの楽しさをどう患者さんの未来につなげていけば良いか、という内容の講義が進められました。生徒たちは熱心に耳を傾け、「作業療法士の仕事ってよく知らなかったけど、授業を受けて理解が深まった」「作業を通して周りとのコミュニケーションを取るのが楽しかった」などの声も。今まで知らなかった作業療法士という仕事の魅力を発見できました。



ミサガを編みあげることで「できる」喜びを体験。



周りとのコミュニケーションを取りながら作業することも、楽しみの一つ。



手順を教わり覚えることも、「生活の質」を向上させるための大事な訓練。



人の未知なる潜在能力の研究をすることも、この仕事の面白さ。